

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語 B I	
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分		一般 / 必修		
授業形態			単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	生産デザイン工学科 (知能ロボットシステムコース)		対象学年		2		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	『現代の国語』(筑摩書房)、『言語文化』(筑摩書房)、西口智也監修『テーマ別 漢字&語彙の徹底攻略 2500+』東京法令出版						
担当教員	豊田 圭子						
到達目標							
1. 論理的な文章を読み、構成や展開に基づいて論旨を理解し、要約できる。 2. 文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果について説明できる。 3. 短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約したうえで、自分の意見を述べることができる。		論理的な文章の構成・展開を正しく理解し、要約できる。		論理的な文章の構成・展開を正しく理解、要約できない。		
評価項目2	文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果について説明できる。代表的な文学作品の日本文学史における位置を理解できる。		文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わい、その効果について説明できる。		文学作品を読み、人物・情景・心情の描写などを味わうことができない。また、その効果について説明できない。		
評価項目3	短歌・俳句・現代詩の表現を学び、熟語・ことわざ・慣用句などの知識を活用し、自ら創作できる。		短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作できる。		短歌・俳句・現代詩の表現を学び、自ら創作することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業では、1年次より高度な論理的コミュニケーション能力を養い、幅広い日本語・日本文学の知識に立脚した理解と表現の力を確立することを目的とする。具体的には、①文章理解を通じて豊かな人間性を培う。②漢字・語句の学習を行い、日本語の語彙力を向上させる。③レポートや口頭発表を通じて表現力・文章力を涵養する。						
授業の進め方・方法	精選された文章を読み、教員との質疑応答や学習者間の意見交流を通じて理解・見識を深める。講義中、グループワーク等の学生主体で学ぶ・考える時間を設ける。						
注意点	①次回学習する単元を予習してくる。②配布する参考資料や課題などを各自整理すること。③問いに対して簡潔明快に答えること。また、自分の意見を積極的に述べるよう努めること。④辞書類、国語便覧を活用し、積極的に疑問を投げかけてほしい。⑤漢字検定4～2級程度の読み書きができる語彙力を養うため、授業では漢字小テストを実施する。⑥常に「興味を持つ」「疑問を持つ」「問題意識を持つ」ことを心がけること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論 (1)		授業の目標と概要を理解できる。 文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解できる。		
		2週	評論 (2)		評論を読み、構成・展開を的確に捉えることができる。		
		3週	評論 (3)		筆者の主張を正しく読み取り、文章を要約できる。		
		4週	小説 (1)		文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解できる。小説を読み、構成・展開を的確に捉えることができる。		
		5週	小説 (2)		登場人物の心情等を正しく読み取り、文章を要約できる。		
		6週	詩 (1)		詩人の生涯や詩の特徴などを学び、それを説明できる。		
		7週	詩 (2)		難解な語句の意味を調べ、理解できる。詩の構成・展開を的確に捉えることができる。		
		8週	中間試験		1～7週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。		
	2ndQ	9週	試験の解説 短歌・俳句 (1)		試験内容を理解し、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。 短歌・俳句を鑑賞し、その特徴や表現技法・効果、背景にある状況を考える。		
		10週	短歌・俳句 (2)		短歌・俳句を鑑賞し、その特徴や表現技法・効果、背景にある状況を理解できる。		
		11週	短歌・俳句 (3) 短歌・俳句の創作と鑑賞		学習した短歌・俳句の特徴や表現技法を踏まえて、自ら創作できる。創作した作品を発表し、他者の作品を鑑賞できる。		
		12週	評論 (4)		文章中に出てくる難解な語句の意味を調べ、理解できる。評論を読み、構成・展開を的確に捉えることができる。		
		13週	評論 (5)		筆者の主張を正しく読み取り、文章を要約できる。		

		14週	評論（6）	筆者の主張を正しく読み取り、それに対して自らの意見をまとめ、文章化することができる。
		15週	期末試験	9～14週までの内容を網羅した試験により、授業内容の理解の定着を図る。
		16週	試験の解説	試験内容を理解し、不正解だった箇所はその理由を説明することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前2,前3,前5,前6,前12,前13
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	2	前7,前14
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	2	前9,前10,前11
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前1,前4,前12
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	2	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	2	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディールanguageなど)。	2	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	課題・レポート				合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0